

皆様の働き方・暮らし方と、これからの地域づくりに向けての調査結果の概要

1. 調査の目的

近年、若年人口の減少、人間関係の希薄化、インターネットの浸透など社会の変化が著しく、子どもの育つ環境や若い世代の働き方や暮らし方にも大きな影響を与えていると考えられます。

邑南町および島根県中山間地域研究センターでは、見えづらくなっているここ10年での若い世代を取り巻く環境の変化を捉え、今後の邑南町、島根県での子育て・子育環境づくり、地域づくりに必要な課題を検討するため、本調査を実施しました。

2. 調査対象

町内に居住の25～44歳の邑南町民(単身世帯、既婚世帯)および15～18歳の高校生(矢上高校生)

○25～44歳の邑南町民 単身世帯 458世帯 既婚世帯 372世帯

○15～18歳(矢上高校生) 254名

3. 調査の方法、調査期間、回収率

①調査の方法 郵送によるアンケートの配付回収(高校生は矢上高校を通じての配付・回収)

②調査期間 25～44歳(邑南町民) 令和6年1月30日～2月20日

15～18歳(矢上高校生) 令和5年12月18～22日

③回収数(回収率)

○25～44歳(邑南町民) 単身世帯 148世帯(32.3%) ※回答者 148名

既婚世帯 146世帯(39.2%) ※回答者 291名 夫婦一人ずつ回答

○15～18歳(矢上高校生) 254名(100%)

4. 調査項目

- ・就労状況
- ・就労条件(通期時間、休暇の取りやすさ等)
- ・経済力
- ・仕事や家事以外の時間の過ごし方
- ・中学生時の家庭内での家事分担や本人の家事への関わり
- ・中学生時の親戚や近所の人達、地域活動との関わり
- ・中学～高校生時の交友関係、コミュニケーション方法
- ・中学～高校生時の将来についてのイメージ(仕事、暮らす場所、社会人になった時の収入や暮らし等)
- ・今後の仕事や暮らしについてのイメージ(25～44歳:独身時)
- ・今後の不安や社会でしっかり対策をしていかねばならないと考えていること

5. 分析項目(進行中)

- ・世代間での家庭、地域、仲間等との関わり方の変化(育ちの環境の変化)
- ・将来へのイメージ(仕事、暮らす場所、結婚、暮らし等)に影響する環境要因
- ・将来に向けた不安、今後の取組が必要と考えている事項

6. 調査結果のポイント

①子ども(中学生時)を取り巻く家庭環境、地域、仲間等との関わり方の世代間の差違

■15～18 歳層は、25～44 歳層より、家族間での家事の役割分担がしっかりされており、子どもも家事(料理、掃除、服をたたむ、洗濯等)に携わるようになっている。

②子ども(中学生時)と身近な地域の人達との関わり方の世代間の差違

■15～18 歳層は近所の子どもの大人と関わる頻度、地域活動参加の頻度が減少している。

③中学生時の日常的なコミュニケーション・学校外のつきあい・趣味の世代間の差違

■学校外で友達と会う頻度は世代間で大きな変化はない。

■家族、友人とのコミュニケーション手段は世代間で概ね変わりはないが、15～18 歳層では若干 SNS の使用割合が増えている。

■15～18 歳層は、25～44 歳層より趣味が増えており、かつ、インターネット由来のものが増えている。

④高校生時の将来についてのイメージについての世代間の差違

■将来の仕事へのイメージについて 15～18 歳層は 25～44 歳層より明確に持っている。

■30 歳を過ぎてから暮らす場所のイメージは世代間で大きな差はない。

■自分が社会人となったときの収入や暮らしのイメージは、15～18 歳層の方が 25～44 歳層より「わからない」が低く、よりイメージを明確に持っている傾向がある。

⑤高校生時の将来へのイメージの 25～44 歳時(未婚期)の将来へのイメージへの影響

■高校生時の将来に向けてのポジティブなイメージ(住む場所、結婚、収入、暮らし)は、25～44 歳時(未婚期)の将来のイメージの持ち方にある程度影響を与えられられる。

⑥高校生時の将来のイメージへの影響要因(家庭生活や地域との関わり等)※分析中のものを抜粋

■将来の暮らす場所のイメージには、日常的な親戚づきあいや近所の大人との関わり量が影響しており、関わりが希薄な場合は、暮らす場所への“こだわり”が弱くなる可能性がある。

■将来子どものいるイメージには、近所の小さな子どもの世話をした体験量が影響する可能性がある。

■自分が社会人として生活しているときの収入の状態のイメージ、および自分が社会人として楽しく暮らしているイメージには、地域活動への参加の量が影響する可能性がある。

⑦25～34、35～44 歳層の将来に向けての不安な事柄、今後社会でしっかり対策すべきと考える事柄

■将来に向けての不安な事柄については、35～44 歳層で「自分の健康」「家族のこと(親の加齢、健康)」「家族のこと(子ども)」等が特に高い

○今後社会でしっかり対策すべきと考えることについては、25～34 歳層で、「育休、介護休暇等の職場の福利厚生の実施」が特に高い

⑧今後の分析の方向性(ポイント)

■現在の子どものはかつてより家庭での家事等の経験が増える一方、地域との関わりでは希薄化が進行

■子ども時の将来へのイメージ(仕事、暮らす場所、結婚、暮らし方等)がかなり成人後の行動や物事のとりえ方に影響することが判明したため、今後は将来へのイメージに影響を及ぼす要因を整理し、地域との関係性の希薄化を含め、地域づくりや政策で対応が必要な事項を整理する。

7. 調査結果の概要(グラフ等)

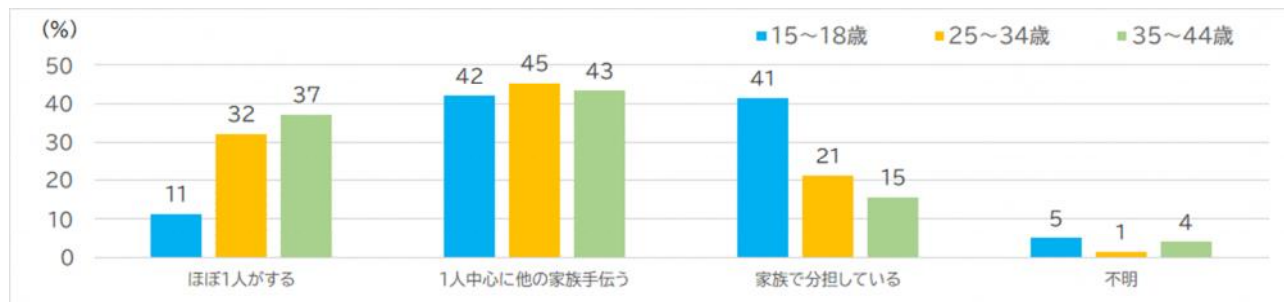
1) 家事への関わり、地域の人達との関わり、コミュニケーションの世代間の差違

① 中学生時の家事分担や家事への関わり方

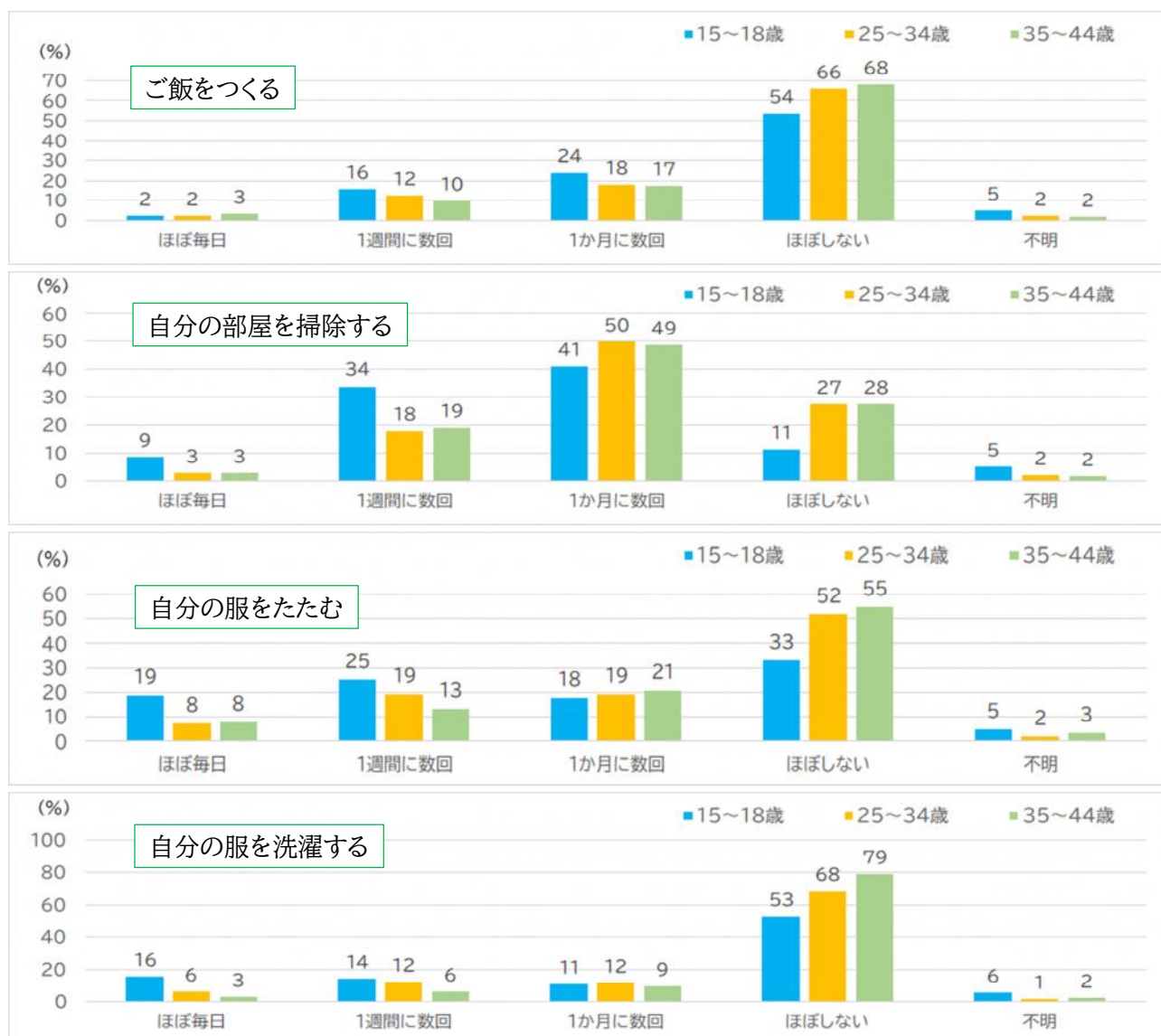
○15～18 歳層は、25～44 歳層より、家庭内での家事の役割分担がされている。

○15～18 歳層は、25～44 歳層より、料理、掃除、服たたみ、洗濯等の家事に携わっている。

■家庭内での家事の役割分担(中学生時)

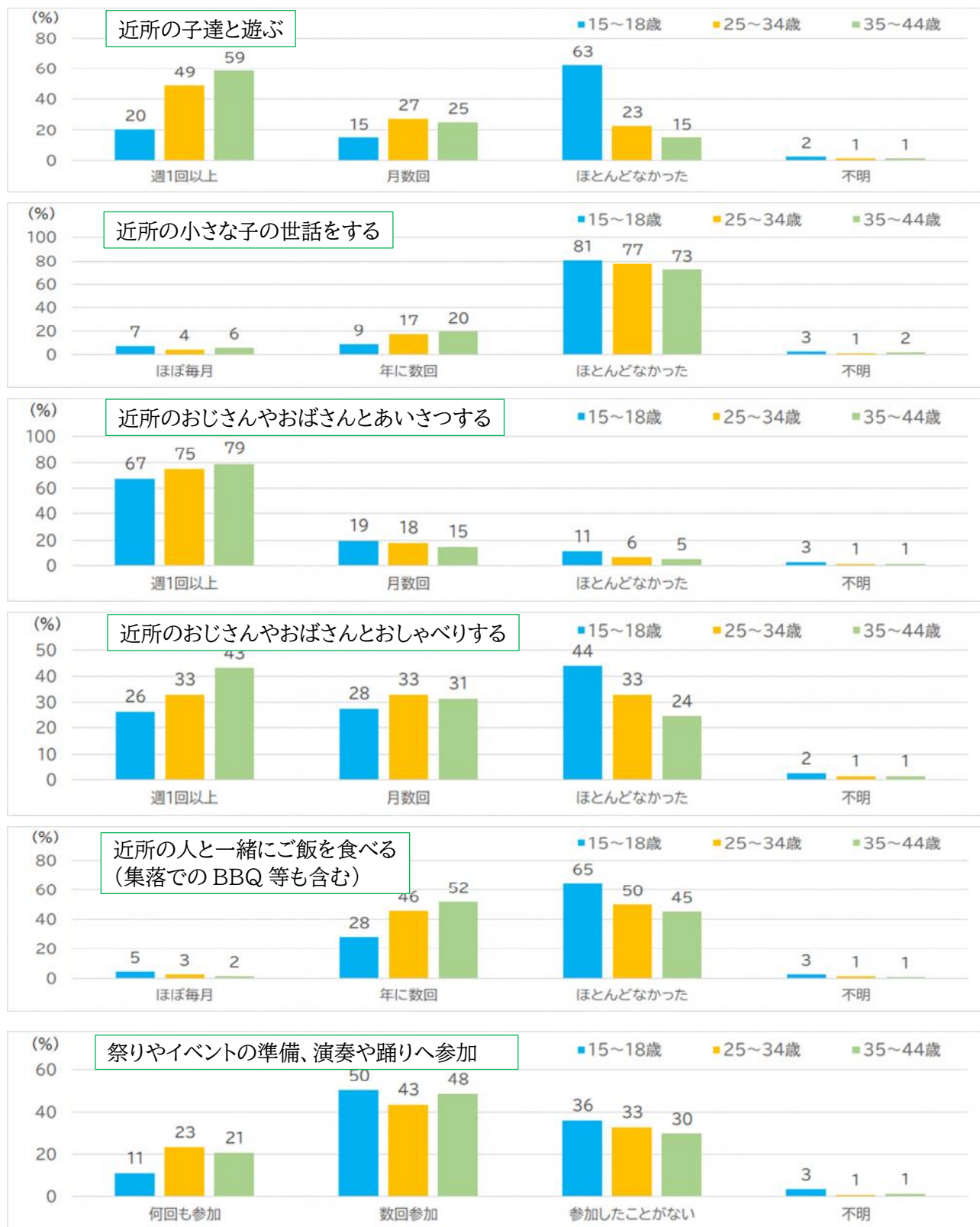


■家庭での家事への関わり方(中学生時)



②中学生時の身近な地域の人達との関わり方

○15～18 歳層は、25～44 歳層より、近所の子どもの関わり、大人とのコミュニケーション量、共食の機会、地域活動中での関わりが希薄化している。



③中学生時の日常的なコミュニケーション・学校外のつきあい・趣味

○家族、友人とのコミュニケーション手段は世代間でも概ね変わりはない。15～18 歳層では若干 SNS の使用割合が増えている。

○学校外で友達と会う頻度は世代間で大きな変化はない(学校での友人関係に大きな変化はない)。

○15～18 歳層では、大好きで時間があればやりたい趣味が増えており、ネット由来のものが増えている。

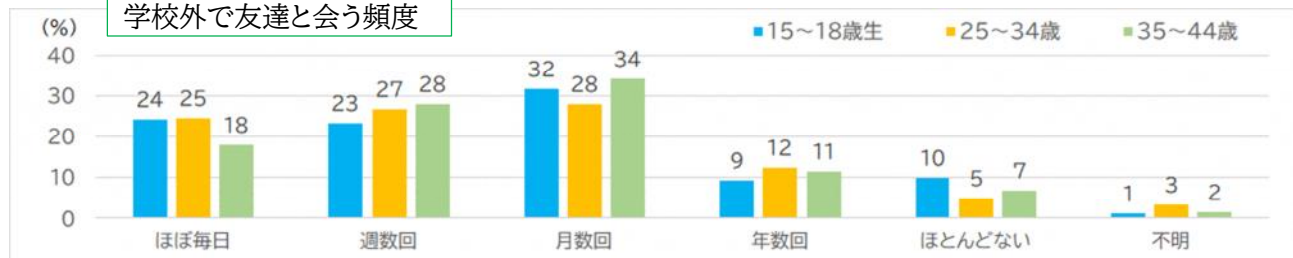
家族とのコミュニケーション手段(1番に多いもの)



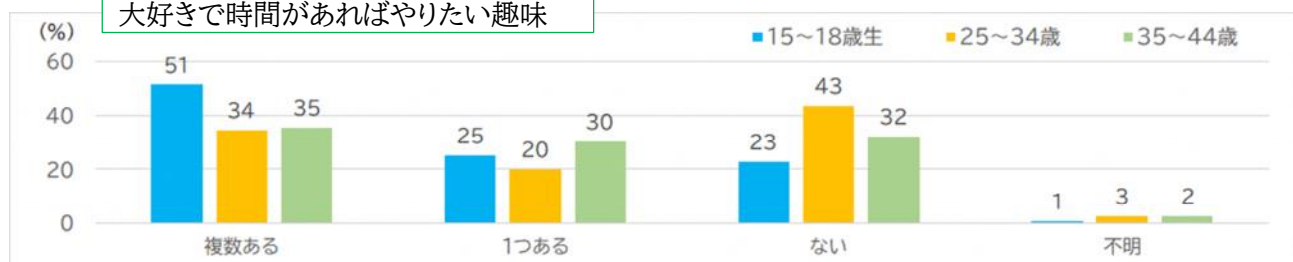
友達とのコミュニケーション手段(1番に多いもの)



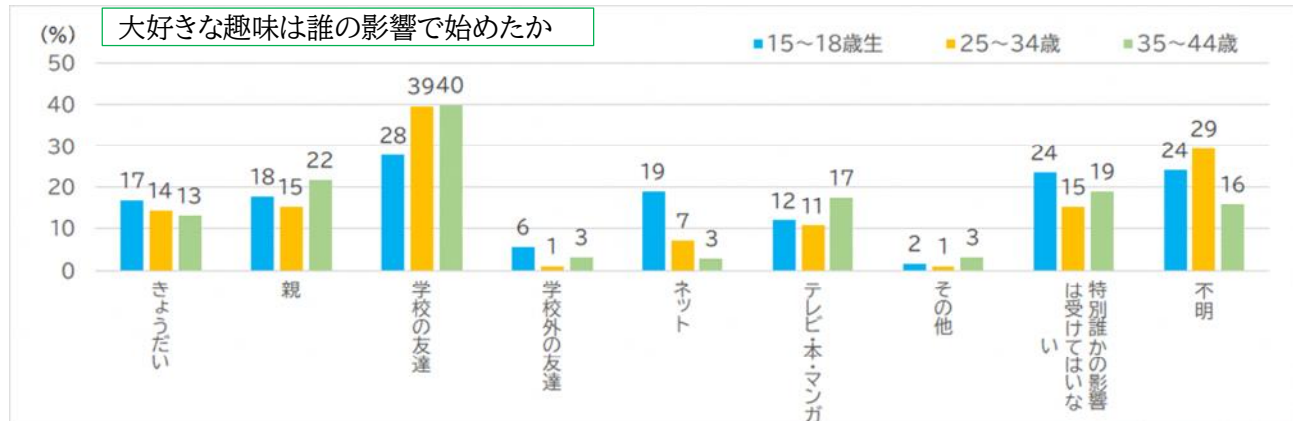
学校外で友達と会う頻度



大好きで時間があればやりたい趣味



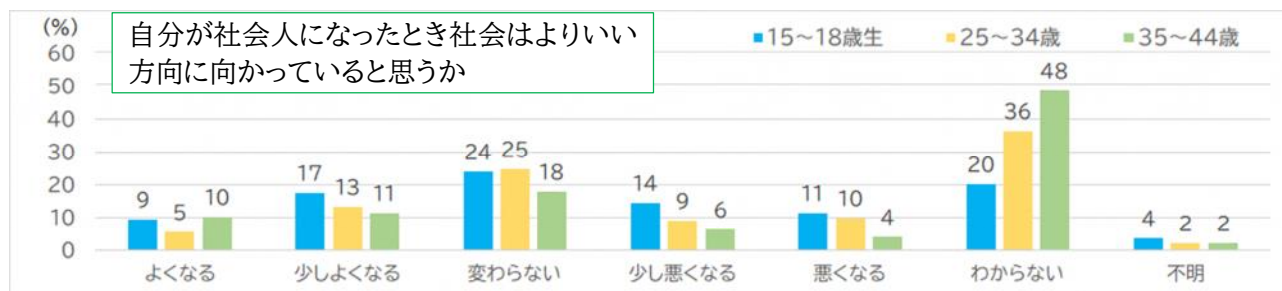
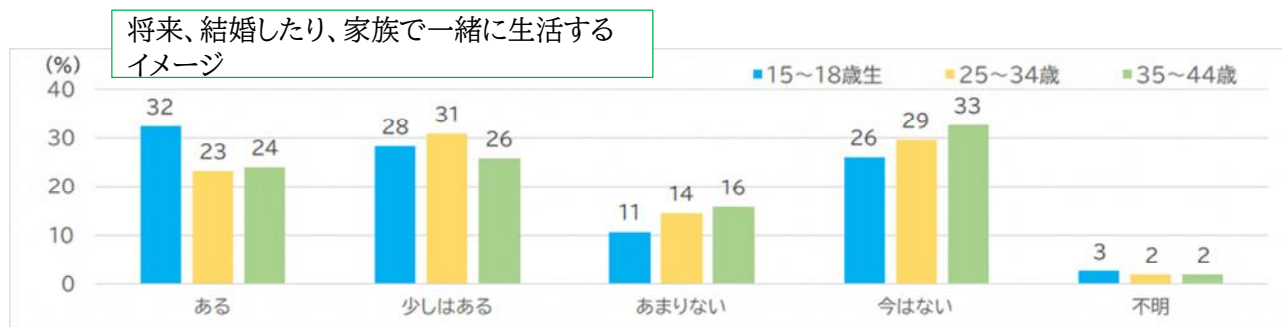
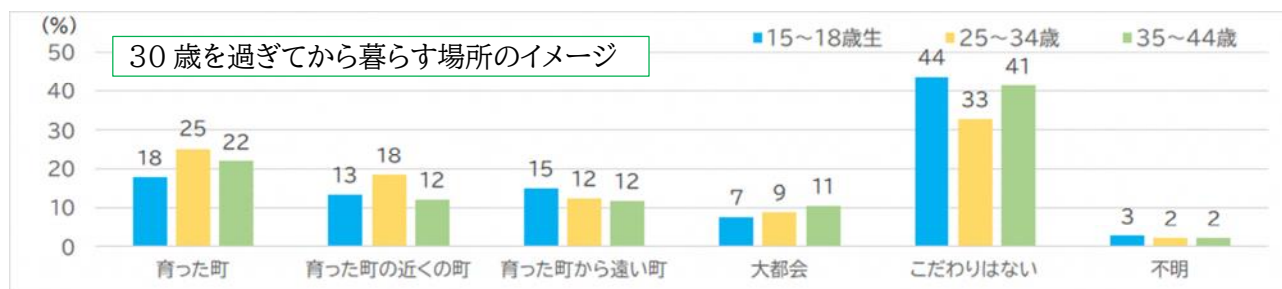
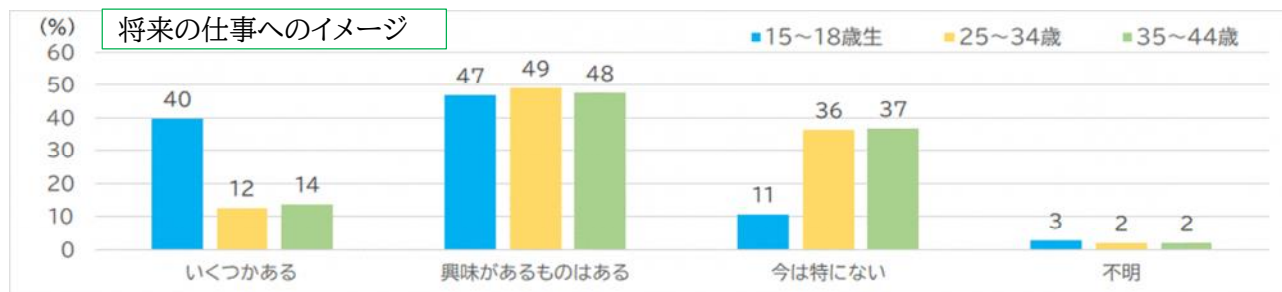
大好きな趣味は誰の影響で始めたか

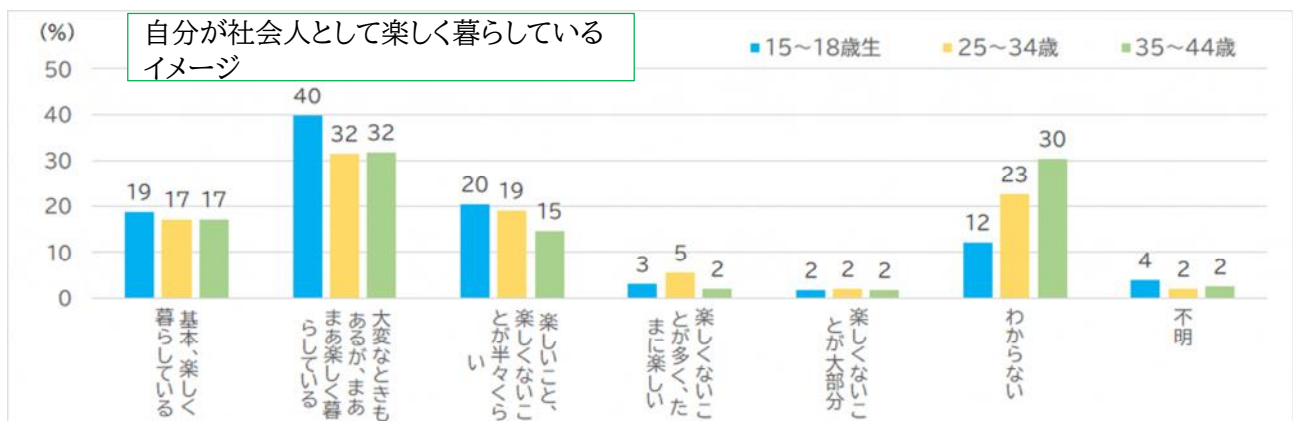
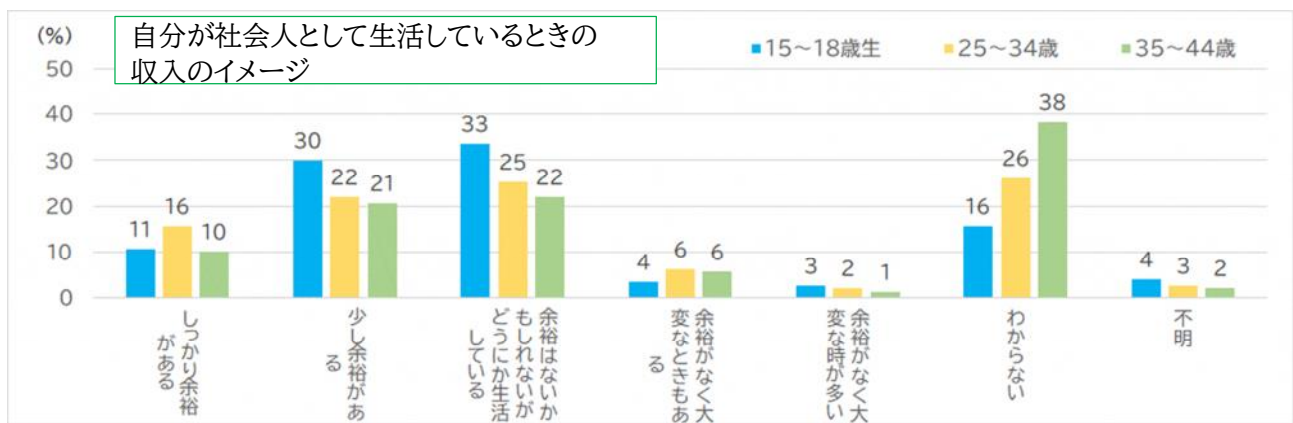


2)将来についてのイメージ

①高校生時の将来についてのイメージについての世代間の差違

- 将来の仕事へのイメージは15～18歳層は、25～44歳層より明確に持っている。
- 30歳を過ぎてから暮らし場所のイメージは世代間で大きな差はない。
- 将来結婚したり、家族で一緒に生活するイメージは、15～18歳層は「ある」方向で25～44歳層よりやや強くもっている。
- 自分が社会人になった時の社会のイメージは、15～18歳層の方が「わからない」が低く、より明確に持っている。
- 自分が社会人となったときの収入のイメージは、15～18歳層の方が「わからない」が低く、明確に持っている。特に、「少し余裕がある」「余裕はないかもしれないがどうにか生活している」が高いのが特徴的。
- 自分が社会人となったときの暮らしのイメージは、15～18歳層の方が「わからない」が低く、より明確に持っている。特に、「大変なときもあるが、まあまあ楽しくらしている」が高いのが特徴的。





②高校生時の将来へのイメージの 25～44 歳時(未婚期)の将来へのイメージへの影響

○高校歳時の将来に向けてのポジティブなイメージ(住む場所、結婚、収入、暮らし)は、25～44 歳時(未婚期)の将来のイメージの持ち方にある程度影響を与える。

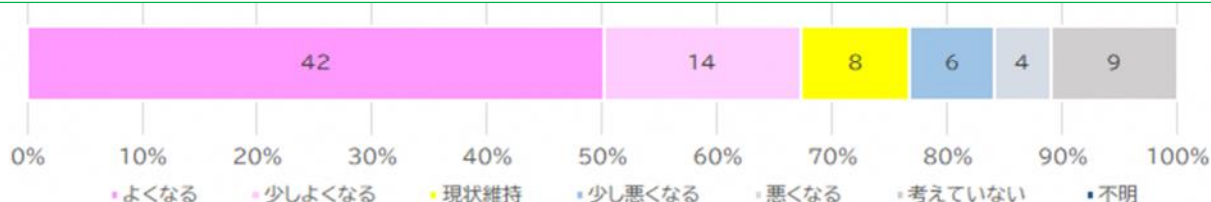
高校生時に「将来、自分が育った町で暮らしている」イメージを持っていた者が、25～44 歳時(未婚期)に持っている将来暮らす場所のイメージ



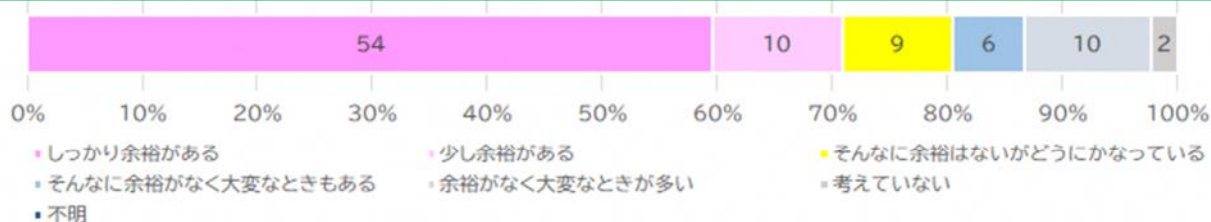
高校生時に「将来、結婚したり、家族と一緒に生活している」というイメージを持っていた者が、25～44 歳時(未婚期)に持っていた、将来の結婚や家族へのイメージ



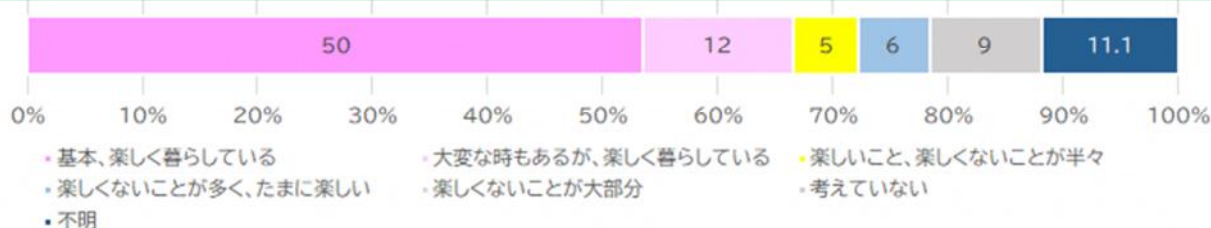
高校生時に「将来、自分が社会人になった時の社会がよくなる」というイメージを持っていた者が、25～44 歳時(未婚期)に持っていた、将来の社会の状態についてのイメージ



高校生時に「将来、社会人になった時の収入がしっかり余裕がある」というイメージを持っていた者が、25～44 歳時(未婚期)に持っていた、将来の収入についてのイメージ



高校生時に「将来、社会人になったとき楽しく暮らしている」というイメージを持っていた者が、25～44 歳時(未婚期)に持っていた、将来の暮らしについてのイメージ



③高校生時の将来のイメージへの影響要因(家庭生活や地域との関わり等)※分析中のものを抜粋

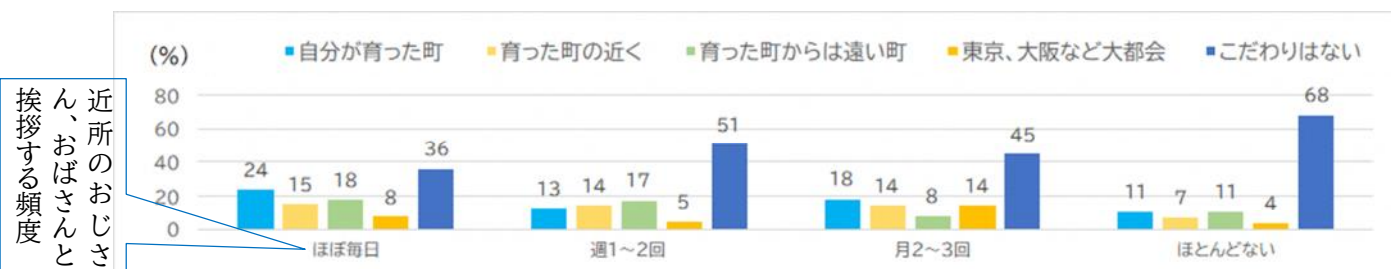
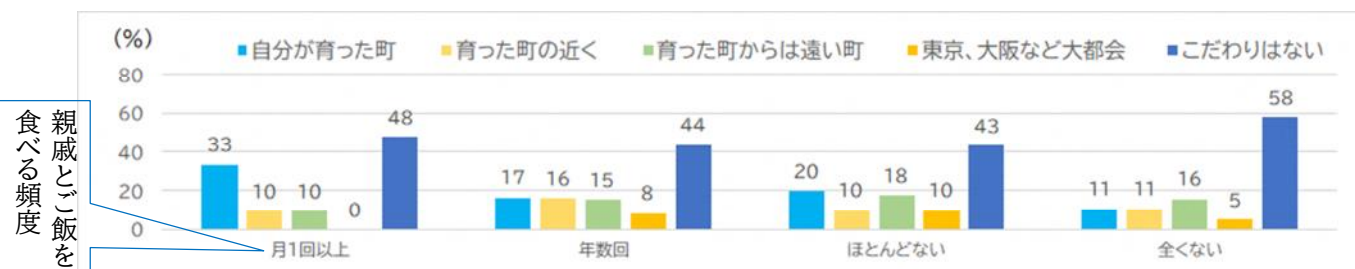
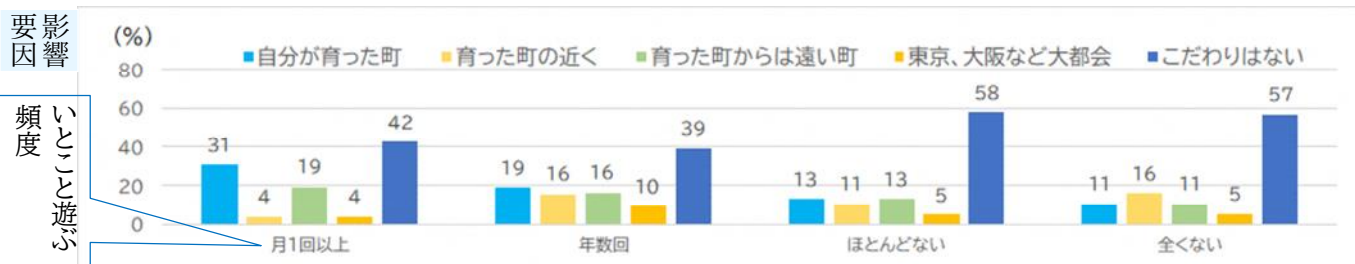
※現在、将来へのイメージへの影響要因の詳細な分析を行っているため、以下に特徴的なものを抜粋

○30歳を過ぎてから暮らす場所のイメージには、日常的な親戚づきあいや近所の大人との関わり量が影響しており、関わりが希薄な場合は、暮らす場所への“こだわり”が弱くなる可能性がある

○将来子どもがいるイメージには近所の小さな子どもの世話をした体験量が影響している可能性がある。

○自分が社会人として生活しているときの収入の状態のイメージ、および自分が社会人として楽しく暮らしているイメージには、地域活動への参加の量が影響している可能性。地域活動への関わりを通し、コミュニケーション力、切り盛りする力や人間関係構築力が形成され、将来のイメージにプラスに影響していることも可能性として考えられる。

■30歳を過ぎてから暮らす場所のイメージ



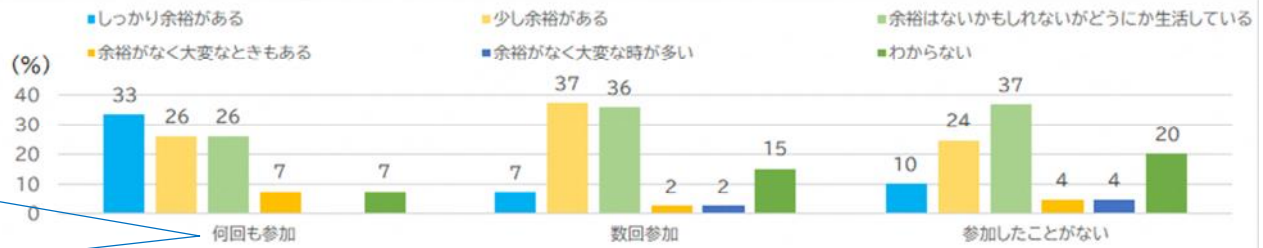
■将来子どもがいるイメージ



■自分が社会人として生活しているときの収入の状態のイメージ

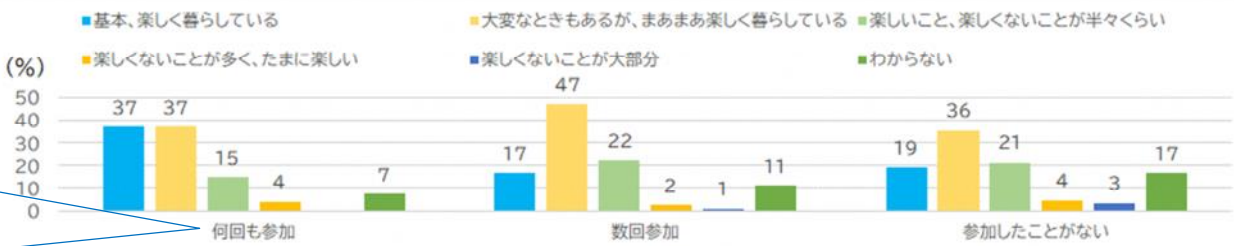
影響
要因

地域の祭りやイベントの準備、演奏や踊りへ参加の頻度



■自分が社会人として楽しく暮らしているイメージ

地域の祭りやイベントの準備、演奏や踊りへ参加の頻度

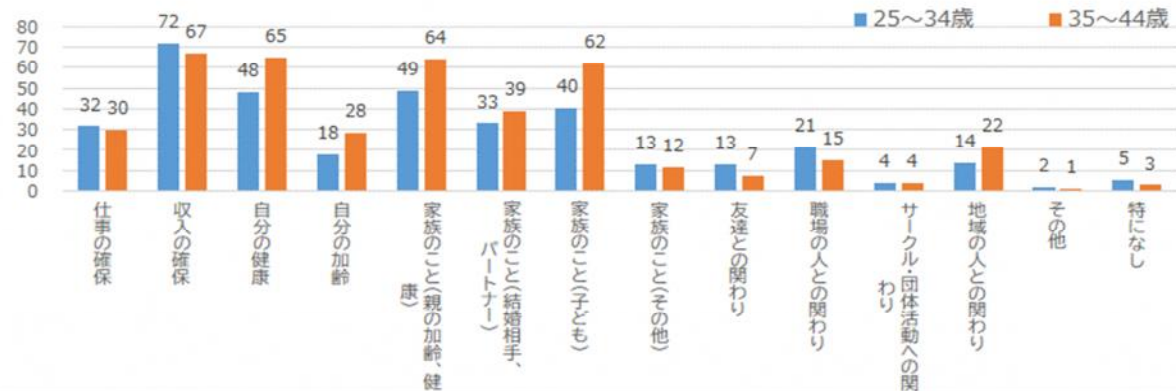


④25～34、35～44 歳層の将来に向けての不安な事柄、今後社会でしっかり対策すべきと考える事柄

○将来に向けての不安な事柄については、35～44 歳層で「自分の健康」「家族のこと(親の加齢、健康)」「家族のこと(子ども)」等が特に高く、自身・家族の加齢に伴い、不安の内容に変化がみられる。

○今後社会でしっかり対策すべきと考えることについては、25～34 歳層で、「育休、介護休暇の職場の福利厚生充実」が特に高く、子育て環境に係る事項での関心が高いことがわかる。

将来に向けて不安な事柄



今後、社会でしっかり対策すべきと考える事項

